

# 日本のプロ野球応援の発展から見る集団性

岸本匠人

本論文は、日本のプロ野球応援が野球の本場であるアメリカの「集団的ではない応援スタイル」とは対照的に、なぜ「集団的応援スタイル」として発展し続けているのか、応援方法の変容とジェンダーの観点から考察する。現在の応援が持つ集団的特徴を究明し、その変容と集団性について論じる。

まず、日本のプロ野球応援文化の歴史的・社会的な基盤を、近代体育・運動会、宗教儀礼的側面、私設応援団による統制に関する先行研究から整理した。次に、日本の12球団の応援方法や応援歌の特徴を明らかにし、その上で日本プロ野球応援の歴史をまとめた。さらにメジャーリーグの応援方法との比較もおこなった。加えて、プロ野球応援に関するアンケート調査を実施し、野球の集団応援へのイメージや、野球経験の有無、グッズ所有状況などとの集団性の関係について分析した。

応援スタイルについては、日本の全12球団の応援にそれぞれの集団的特徴が確認できた。「男女別パート応援歌」の採用や、地域密着・ファン獲得を目的とした「地域特化型応援歌」の導入、ペンライトによる新たな視覚的応援などといった各球団による違いや共通点があった。また、アンケート調査の結果、ファンは集団応援に参加することで「日常からの解放感」や「チームに対する強い帰属意識」を得ていることが明らかになった。周囲と歩調を合わせることを暗黙のうちに強いる集団的圧力が、秩序を守る機能と同時に、個人の振る舞いを制約する「規律」として作用している実態が見えた。つまり、応援席には「統制」と「逸脱抑制」のメカニズムが働いているといえる。

結論として、日本のプロ野球応援は、歴史的な身体規律を土台にしながらも、現代社会の価値観に合わせて発展し続けている。一体感を維持しつつ、いかに多くの観戦者を巻き込んだ「開かれた集団性」へと発展させていけるかが、日本の独自性の高い集団的応援文化の存続・発展の鍵となる。